

5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

## 1.教育理念・目的等

評価

1	1-1	理念・目的・育成人材像は定められているか	5
2	1-2	学校の特色を理解しているか	5
3	1-3	学校の将来構想を抱いているか	5
4	1-4	理念に基づく教育が行われているか	4

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

本学院は、

1. すべての国の人々が、わかりやすい日本語を使って日本語を効率よく楽しく学ぶための出会いの場を提供する。
2. 多様化する国際社会の中にあって、相互理解のための有能な才能の育成をはかる。
3. 日本語教育を通して、国際交流をはかり、国際親善の一翼を担う。

という3つの理念を掲げ、この理念に基づき教育活動を継続、実践している。

当校は、多様な学習目的に応えられるよう一般日本語コースを設置している。2021年度は主に進学を目的とした学習者を受け入れ、日本の大学・大学院・専門学校に送り出した。2022年度以降は就職希望の学習者の入学も予定されており、より多様な学習目的を持った学習者を受け入れることとなる。また、教育理念にある「国際交流・国際親善」という点についても、コロナウイルスの影響で制限はあったものの、学生が日本文化に触れられるよう校外活動を実施した。2022年度は、欧米からの学習者の入学が予定されており、より多くの国際交流の場を提供できるようになるであろう。

## 2.学校運営

評価

5	2-1	学校の理念・目的の達成に沿って運営方針が定められているか	5
6	2-2	学校の理念・目的の達成に沿って事業計画が定められているか	5
7	2-3	運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	4
8	2-4	人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	4
9	2-5	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
10	2-6	学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	4
11	2-7	危機管理体制は整備されているか	4
12	2-8	施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法に基づき整備されているか	4

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

運営方針や事業計画については、毎年、学校法人の理事会・評議員会の場で、次年度の予算と共に示され、理事・評議員の承認を得た上で決定されている。

実務においては、管理的立場にある校長、副校長が日々コミュニケーションを取りながら運営方針を確認している。そして、その方針は会議や日々のコミュニケーションの中で、副校長から教職員に共有されている。

2020年度に行われた「学生情報（面談記録・進学情報等）のデータ化・一元化」は2021年度も活用され、業務のシステム化は進んでいるが、一部業務においてはさらなるシステム化・効率化を検討する余地がある。

施設・設備については、学校教育法に基づき整備されている。コロナウイルス感染拡大防止という観点でも、ソーシャルディスタンスの確保（机といすの配置を換える）、飛沫感染対策（自習室にアクリル板を設置する）、消毒（机やいす、階段の手すり等を毎日消毒）等を実施し、1年間校内での感染事例は発生しなかった。その他、危機管理体制についても校内の設備点検・修繕を行い、安全の確認ができています。水や食料の備蓄を整える等、学習者と教職員にとってより安心、安全な体制を整えられるよう取り組む。

5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

## 3.教職員

評価

13	3-1	教育理念・目的が教職員間で共有されているか	5
14	3-2	教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	4
15	3-3	教職員評価を行っているか	4

## 〈現状・具体的な取り組み/課題〉

教育理念は教員全員に配布されるコースカリキュラムに記載されており、各自でいつでも確認できるようになっている。教育の質については、校内でもメールでも教職員間で頻繁に行われており、問題や課題についての検討・改善が行われてきた。

2020年度に導入された「人事評価制度」は、教職員一人一人が自分自身を評価する「自己評価」と、上長が教職員を評価する、いわゆる「人事評価」が含まれており、公平・公正な評価がされるようになった。

## 4.教育活動

評価

16	4-1	カリキュラムは体系的に編成されているか	5
17	4-2	授業評価の実施・評価体制はあるか	5
18	4-3	目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか	5
19	4-4	成績評価、進級判定、修了判定は適切に行われているか	4
20	4-5	各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	4

## 〈現状・具体的な取り組み/課題〉

コースカリキュラムは従来より体系化され、成績評価・進級判定も3か月に一度試験を実施し、適切に行われている。教育の質・教職員評価という点では、多角的に授業を振り返りチェックできる体制が確立された。一つは、学生が授業を評価する「学生アンケート」、もう一つは教師自身による授業の「自己点検シート作成」、さらに研修担当者が教員の授業に対してフィードバックする「研修」がある。これらの新たな取り組みによって、授業を振り返り、きちんと評価できるようになった。EJUやJLPTの試験対策授業も選択クラスで実施しており、EJUの日本語試験の校内平均点、JLPTのN2以上の合格率も2020年度比で向上した。

## 5.学生支援

評価

21	5-1	進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
22	5-2	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
23	5-3	学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか	4
24	5-4	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	5
25	5-5	保護者と適切に連携しているか	5
26	5-6	卒業生への支援体制はあるか	5

## 〈現状・具体的な取り組み/課題〉

進学指導は、当校とグループ校の実績に基づいた進学データ・アンケート結果が活用されている。各クラスの担任講師が進路指導担当者として学生の状況を把握し、学生の状況や要望に応じて1対1の面談を行っている。また、情報は資料のみならず、日々担任講師間で情報交換がされており、学習者に合わせた指導が行われている。

学生寮は希望者に対して提供され、日本留学がスムーズにスタートできる体制となっている。日本留学中は生活に困ったことがあれば事務職員が対応しており、日本語・英語・中国語は当校スタッフが、その他言語はグループ校の事務職員に相談できる体制が整っている。

5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

## 6.在留管理と生活指導

評価

27	6-1	入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	5
28	6-2	日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	5
29	6-3	我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	5
30	6-4	常に最新の学生情報を把握しているか	5

## 〈現状・具体的な取り組み/課題〉

これまで同様、当校では入学時にオリエンテーションを実施し、日本での生活やルール等についての指導を行っている。オリエンテーションの内容も前年度の状況を踏まえ、適宜修正を加えている。入学後は、3か月に1回程度、事務職員が学習者一人一人と個別面談を実施し、金銭管理も含めた生活指導を行っている。また、特にアルバイトに関しては徹底した管理を行っており、アルバイト先との労働契約書・毎月の労働時間の提出を義務付けている。面談を通して得た情報はデータベースで一元管理されており、事務職員や教員もその状況を確認できるようになっている。

## 7.学生の募集と受け入れ

評価

31	7-1	学生の受入方針は定められているか	5
32	7-2	学生募集活動は、適正に行われているか	5
33	7-3	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	5
34	7-4	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5
35	7-5	適正な定員設定及び在籍者数になっているか	5

## 〈現状・具体的な取り組み/課題〉

学生の受け入れは、当校の教育理念に照らして、日本語学習目的、日本語学習歴、経費支弁能力の3点において問題のない学生のみを受け入れている。募集活動は、ベトナム・中国においては現地にある直営事務所が、その他の国・地域においては現地留学院を介して行っている。特にベトナムにおいては、学習者の母国の高校の成績等が厳正に審査され、入学の可否が決められている。当校卒業生の受験結果やJLPT・EJU等の試験結果等の教育成果は年度末に直営事務所に報告し、事務所で活用されている。当校の入学定員は100名であり、在籍者数はその範囲内である。

## 8.財務

評価

36	8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5
37	8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5
38	8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	5
39	8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	2

## 〈現状・具体的な取り組み/課題〉

当校の経営母体である学校法人吉岡教育学園においては、中長期的に見て問題のない財務基盤が確立されている。新年度の予算・収支計画については、学校法人吉岡教育学園の理事会・評議員会の場で審議され、承認を受けており、有効かつ妥当なものとなっているといえる。

年1回の決算においては、適正な会計処理を行い、監事による会計監査を受け、学校法人の理事会・評議員会の場で、監査報告がなされ、承認を受けている。財務情報公開については現在検討中である。

5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

## 9.法令等の遵守

評価

40	9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5
41	9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	5
42	9-3 自己点検・自己評価の実施と、問題点の改善に努めているか	4
43	9-4 自己点検・自己評価結果を公開しているか	5
44	9-5 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	5

## 〈現状・具体的な取り組み/課題〉

学校の運営は「日本語教育機関の告示基準」等を遵守し、学則に基づき運営している。また、出入国在留管理庁への報告等も遅延なく適正に行っている。

自己点検、自己評価は毎年度実施され、問題点の改善につながっている。結果については学校HPにて公開されている。2022年度の学校運営・教育活動についても、今回の自己点検・自己評価を踏まえて進めていく。

## 10.社会貢献

評価

45	10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	5
46	10-2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	3

## 〈現状・具体的な取り組み/課題〉

当校が属する千駄ヶ谷グループは、引き続き教育資源を、一般社団法人応用日本語教育協会主催のSTBJ標準ビジネス日本語テストや一般社団法人全国日本語教師養成協議会主催の日本語教師検定に活用し、社会貢献を行っている。学生のボランティア活動については、2022年度の課題の一つである。

## 〈総括〉

2021年度は、2020年度「自己点検・自己評価」に基づき、教職員評価・授業評価が制度化された。この制度が維持されることで、教育・授業の質が可視化され、教職員・授業がより公平・公正に評価されることが期待できる。そして、その結果、これまで以上に教育の質を高いレベルで維持できるようになると考えられる。

現場レベルでは、2021年度もコロナ感染の影響が大きかったが、中でもできる限り教室対面授業を行い、一部校外活動を再開する等、少しずつ本来の姿に戻りつつある。当校の強みでもある「教員同士・教員事務職員間・教員学生間の密なコミュニケーション」はコロナ禍においても変わらず、今年度も学生の目標達成のサポートができた。2022年度も、多様な学習目的の学習者を受入れ、そのために必要なサポート体制を整えていきたい。